

SAN-Ai

社会医療法人 三愛会 広報誌「さんあい」

Vol.28



ひとに笑顔を ちいきに“愛”を
社会医療法人 三愛会

社会医療法人 三愛会 広報誌「SAN-Ai」Vol.28 (2023年7月1日発行)
発行元/〒870-1151 大分市大字市1213番地 TEL.097-541-1311 社会医療法人 三愛会 大分三愛メディカルセンター 広報委員会
社会医療法人 三愛会/www.san-ai-group.org/ 三愛総合健診センター/www.kenkou-oita.com

Pace(パーチェ)はイタリア語で「平和」を意味します。

2023年2月に新設された
大分三愛メディカルセンター
職員食堂・カフェ「Pace」

職員食堂・カフェ



「職員の幸せ」「安心して働く」を貪欲に追求していく。

Be Flexible

社会医療法人三愛会、そして 大分三愛メディカルセンターの働き方改革

深刻化する医療介護の 労働力不足。

2023年6月に発表された厚生労働省の人口動態調査によると、1人の女性が生涯で出産する子どもの数を示す「合計特殊出生率」は、2022年1年間で1・26となり、2005年と並び過去最低となった。年間に生まれた子どもの数も77万747人で、統計開始以来初めて80万人を下まわり、過去最少となった。人口減少に加え、少子高齢化にコロナ禍も相まって、医療介護業界の労働力不足問題は、層拍車がかかっている。

人手不足は、今後も慢性的に続くと思われる。厚生労働省のシミュレーションによれば、2025年には185・225万人の看護職員が必要とされているが、実際の働き手は180万人ほどといわれているのが現状だ。

個々の機関が人材不足をいかに解決し、そして適切な医療を提供し続けるか。コロナ禍も5類移行で落ち着きつつある今、これからの医療介護機関の問題はここに尽きる。

大分三愛メディカルセンターをはじめとする社会医療法人三愛

会でも、働き方改革は進められている。特に看護職をはじめ女性の多い職場であり、また全体的にも若い世代の職員が多いため、「子育て世代の働きやすさ」は常に追求されている。

コロナ流行期では、全国的にも社会問題となったように、病院職員の感染・濃厚接触による欠勤が続き、その中ではなんと毎日を乗り越える術を見出し出してきた。その経験を糧に、いかに「安心して働ける」環境を創るか。その推進は日々議論されている。

「医療者だから、介護職だから 仕方がない」を疑う。

「医療職、介護職だから」「ひとの命を守るのだから」。そういつてこれまで、医療・介護の世界では多くのスタッフが誠心誠意従事してきたが、その対価にはやはり、スタッフたちの人生の多くの時間が費やされてきた。ある高齢の男性医師は「我が子の成長の過程は、ほとんど見ることができなかったですね」と自嘲気味に言う。ある若手の女性スタッフは「子どもを一人にさせる時間が長く、スマートフォンを延々と眺めていることも。けれど、本人を叱責するのも違いますよね」と悩みを打ち明ける。

〔大分三愛メディカルセンター 基本理念〕

- 一、患者さまが安心して生命を委ねられる病院をめざします。
- 一、専門性の高い医療、患者さま中心の医療を実践する病院をめざします。
- 一、他の医療機関・福祉施設と共に良い医療を支える病院をめざします。
- 一、職員が幸せでやりがいのある病院をめざします。

〔社会医療法人三愛会 基本理念〕

- 一、生命と健康を支える
- 二、地域社会と連携する
- 三、人を大切にし 育てる

それらの想いを「仕方がない」というワードで黙殺してきた時代が、どの業界にもあった。しかし時代は確実に変わっている。「変わりつつある」はとうに過ぎ、すでに「変わらなければ生き残れない」というフェーズに入っている。まして医療介護は直接的に「ひとの命を守る」もの。我々は「スタッフの健康、そして家族との時間を守る」とが、一人ひとりの患者・利用者の健康を守ることに繋がっている」と信じている。

結果的に出てくる言葉は、「よりよい医療介護を提供する」となる。現場の医療技術を向上させることと同様に、業務環境を改善させるのは喫緊の課題なのだ。

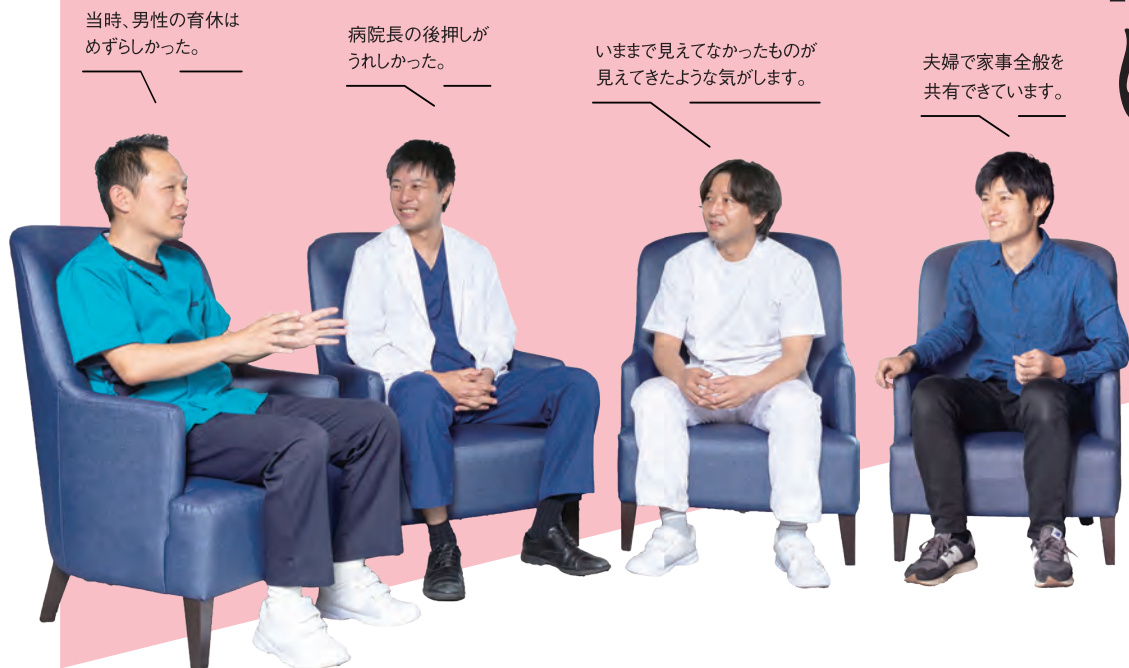
たとえば社会医療法人三愛会では、2023年より新しい仕組みを早速実践に移している。ほんの一部を挙げてみると、特別連続休暇制度の「義務化」。結果的に休日が増加した。また、2022年に施行された、いわゆるパパ育児制度。すでに複数名の男性職員が取得した（次頁）。ほかにもまだまだ、特に「子育て世代支援」といった部分を強化する施策を進めている。

今回は、三愛会での働き方と休み方、その変容を特集する。

男性の育休を 当たり前に。



社会医療法人三愛会では男性の育児休暇や、
2022年から始まった「産後パパ育休（出産時育児休業）」を
積極的に推進している。
男性が仕事を続けながら、いかにして子育てに参加できるのか。
今回は、育児参加のスタイルはさまざまではあるが、
それぞれの手段で育児休暇を取得し、
子育ての問題に一石を投じた4名の職員を紹介する。



夫婦で家事全般を
共有できています。

いままで見えてなかったものが
見えてきたような気がします。

病院長の後押しが
うれしかった。

当時、男性の育休は
めづらしかった。



総合診療科医師 堤 大輔
2023年2月/産後パパ育休取得

医師でも取得できるという
前例になった。

今回、3人目の子どもで初めて育休を取得しました。いまでは「男性が働き、妻は家庭で子どもの育児を担当する」という従来の視点にとらわれていたのかもしれない。2人目までは仕事から帰宅したあと、夕食や入浴などで育児に関わってきましたが、妻は24時間子どもを見ていなければならず、「特に夜中はつらくて、孤独に感じる」という言葉が印象に残っています。私が眠っている間でも、新生児に3時間おきにミルクをあげていた妻のことを思うと、申し訳ない気持ちが入り込んできます。

しかし医師という職業上、育休は周囲への影響が大きいのではないかという不安がありました。そんな中、意を決して病院長や理事長に育休取得を相談すると、嫌な顔もせず「ぜひ取得してください」

と後押ししていただき、本当に感謝しています。積極的に育児に関わり、研修医のように妻からいろいろ学ぼうと思いました。しかし実際に育児にたずさわると、その大変さは予想以上でした。「子どもは可愛いけど、24時間ずっとしよにしていると、たまには離れたくなる」という妻の発言の意味が、今回やっとわかったような気がします。

ある日の沐浴中、へその緒が取れて、3人目にして初めてその瞬間を見て感動をおぼえました。常に関わっていると赤ちゃんが何を求めているのかわかるようになり、我が子の成長とともに自分の成長を感じることもできます。最も大切なのは、「男性が育児に興味を持つ」こと。仕事が忙しくて、育児に目を向ける余裕がないという場面もありますが、少しでも立ち止まって、この時期になにが大切なのかを考えるべきだと思います。

我が子の新生児期は本当に一瞬で過ぎていきます。この時期というのは顔が日々変わっていくことです。我が子の変化を毎日見ることで、妻からいわれて育休を取得するのではなく、自ら進んで育休を取得することに意味がありました。今回、私の育休取得が他の職

員の後押しになれば嬉しいです。育休を取得してみて、当院はとても理解のある職場だと実感しました。今後、育休制度を利用する男性職員がいたならば、次は自分も協力したいと思います。



薬剤師 梶原 洋文
2023年2月/有給休暇を利用した
育児のための休暇

働きながら育児家事をこなす
方々のリスペクトの気持ちだ。

私の場合は制度を使用するのではなく、有休と公休を組み合わせて10連休をつくり、育児対応としました。実家には帰らず（頼り過ぎないように）、当時8歳の上的子と生まれたばかりの子とも、家族4人で過ごす時間を尊重する。そういった思いで、育児に専念する時間を設けました。

食事全般と家事を担当し、夜3時間おきのミルクなども対応。非常に大変な思いをしましたが、この体験がなければ本来の意味で気持ちを分かち合えないと考え、あえて必要以上のことに関

わってみました。家事に関してスキルを身につけていると、何をしてほしいか察することができるようになります。つまり気遣いもよりよくできるようなってききました。一番痛感したのは、妻はもちろん、働きながら育児家事をこなす方々へのリスペクトだったと思います。妻や、世の中の働くお母さんがどんなに大変な思いで日々をこなしているのか、全くといっていいほどわかっていませんでした。今までの浅い理解が覆され、1人目の時からもっと参加しておけばよかったという悔やみすらあります。なにより、見えてなかったものが見えてきた、また、何が求められているか察する力が身についた期間でもありました。



作業療法士 石田 聡
2011年1月/未だ珍しい時代に
育児休暇を取得

いまでも妻から育休取得を
感謝されます。

かなり前の話になりますが、12年前の1月4日から2月上旬ま

での一カ月間、育休を取得しました。当時はまさに「取得したことがある」という男性もいなかったのですが、迷う部分もありましたが、周囲のスタッフも若手が多く、理解や協力を得られたので感謝しています。それでも10数年前ですから、当時はまだまだ社会的に「男性は育休を取得しづらい」という風潮はあったと思います。それでも、事務の男性から「先を越されたなあ」と言われたことをいまでも不思議と覚えています。みんなも育休は必要なことだと感じていたのではないのでしょうか。

次男が生まれるタイミングでした。1人目以上に妻の体調に不安がありましたので、部長に思い切って相談しました。妻と長男も一緒に過ごし、全体的にバックアップをするような一カ月間でした。長男の時は本当に妻も大変そうで、「誰とも話すことがなく、1人がつらい」とぐったりしていたことを覚えています。私が育休取得したことで、普段の時間の中で「やっと話し相手ができた」と喜んでくれて、心が落ち着いていた様子でした。妻は今でも当時を振り返りながら、「よく育休を取得できたよね」と感謝してくれています。

いまでは男性の育休取得を推進する企業も増えましたが、そん



経営管理部 森 拓造
2023年4月～現在/育休取得中

2人目にして初めて、
離乳食の大変さを実感。

新年度のタイミングで取得し、現在もパパ育休中です。妻も医療関係者で、2人目の子どもを妊娠した際には、以前から「早く仕事に復帰したい」という要望がありました。そこで昨年の5月くらいから上司に相談したところ、快くOKをいただいたので、夫婦で安心したことを覚えています。

日中は妻は仕事で、3歳の長女は保育園なので、父1人・次女1人です。現在生後半年ほどで、正直なところ「離乳食の用意がこんなに大変なのか」と、2人目にして実感しています。乳幼児が安全に食を摂れるよう、毎回毎回おかげのよう加工して食べさせるなど、細かい苦労の日々です。当然家事も行います。洗濯などのほ

Close up! 福利厚生/育休をサポートするために



か、いわゆる「名もなき家事」もたくさん。それらをやっていると、夫婦で家事全般を「共有」できてくるので、妻が休みの日でも上手に分担することができるようになりました。育休としてしっかり子育てに向き合えるからこそ、初めて知ることがたくさんあります。

姉の背中を追って。 妹に誇れる「先輩」として。

職員の中には、兄弟、親子、親族関係なども実は多いが、珍しいことに2年続けて、姉妹の新卒看護師が大分三愛メディカルセンターへ入職した。

姉 母や祖母が看護師で、親戚も医療関係が多かったので、なんとなくその方向に行くのかなとは思っていました。中学3年生の時、目の前で車両事故に遭遇。周囲が呆然とする中、母がいち早く救助に走ったんです。その姿を

見て、自分も同じ道をめざそうと決めました。

妹 「三愛をめざそうかな」と言い出したのは、昨年の夏くらい。新卒1年目ですでに働いていた私は、優しく教育してくれる先輩も多いし、「いいんじゃない？」と



左/妹、右/姉

軽く答えていました。実際に同じ病院に入職が決まった時は驚きました。最近、妹のいる病棟の看護師から「ちゃんとやっているよ」「しっかり頑張っている」と聞くと、嬉しくなります。私も、気がつけば妹と同期の新人を教える立場。この病院で頑張る理由がまた増えました。

妹 小学校の頃は、放課後、母の勤めていた病院に顔を出していた毎日。自然と、私もこんなふうになりたいなあと感じていました。家に帰っても、母の仕事の様子を聞くのが好きでした。看護師をめざし始めたのは、実は姉よりも先。だから、その後になつて姉が看護師になりたいと言い出した時は、なんだか私も嬉しくなりました。

三愛への就職を決めたのは、「地域に寄り添った看護なら、三愛がいいのでは？」と学校から勧められたのもありましたが、やっぱり姉がいたから、というのもあります。姉も「いいんじゃない？」と背中を押してくれて、「同じ職場の先輩」として、いろんなことを教えてもらっています。

たとえば、色による気づきで退勤を促す。 急性期病院における 看護師の働き方改革。

2023年春、大分三愛メディカルセンターではいくつかの職種の制服が変更された。機能性の向上などが図られており、見えない工夫も盛り込まれている。

特筆すべきは、日勤・夜勤の交代がある「病棟看護師」の制服だ。今回はじめて、同じ部署の看護師ながら「日勤者」と「夜勤者」のカラーが明確に分けられた。

突然、救急患者が運び込まれてくるのが当たり前の急性期病院では、日勤者がいつまでも残ってしまいがち。確かに仕方がない局面は多いが、それでも残業が減少するよう、帰りづらいまま業務を続けてしまわないよう、「視覚」で工夫している。誰が日勤か夜勤かは一目瞭然。いま残業中である看護師が瞬時にわかる。そして、色による気づきで退勤を促す。

小さなことかもしれないが、そういったところから働き方改革は着実に進んでいる。

看護師夜勤者（オレンジ）

看護師日勤者（ホワイト）



①看護補助者 ②夜勤看護師 ③内視鏡担当看護師 ④日勤看護師 ⑤師長・部長看護師 ⑥看護事務作業補助者 ⑦救急看護師

Close up! 福利厚生/看護師の就労環境を改善するために

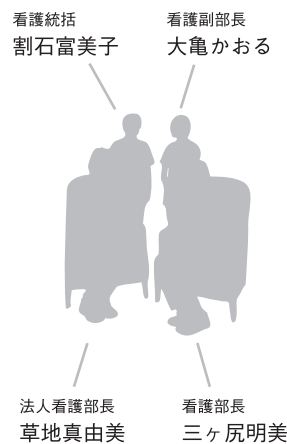


体制の強化で 就労環境の改革を。



2022年に法人看護部長の草池が入職し、すでに多くの改革に着手してきました。

2023年には、看護副部長として大亀が入職。4名の幹部体制により、看護体制の強化と共に、医療接遇改善や環境整備、職員のメンタルケアの仕組みづくりなど、積極的に改革を進めています。



DX・AI・ICTの実装化と業務効率化で 職員の負担軽減をめざす。

社会医療法人三愛会 理事長 三島 康典



昨 年2022年は「業務整理・生産性向上の取組み」「各事業所間の人材共有」「働き方改革への取組み」などといった目標を設定しました。たとえば医師の働き方改革は、2024年度から開始となり、医師は時間外労働を年960時間まで認められていますが、間違った認識でタスクシフトすると、他職種の時間外労働が増加してしまうので、組織としてはなかなか難儀な問題です。

今後の地域医療提供体制を考えていく上で、人口構造の変化への対応が求められます。総人口は減少傾向ですが、65歳以上の人口は増加見込みです。地域の医療需要の変化を見据えつつ、法人の方向性を考えています。大分三愛メディカルセンターは地域密着型の急性期病院として、救急の受入れや感染症の対応、手術、専門治療などを充実させます。また、のつはる診療所や庄内診療所を活用し、急性期病院や、かかりつけ医の後方支援をスムーズにするとともに、介護施設の入所も、入院に近い形で運用することを検討しています。

そういった中、医師・看護師・介護士ほか、人材の確保は深刻

な問題です。当法人や地域の医療機関だけでは開つていけない事態がやってきました。いかにして地域の医療・介護を支えていくかは大きな命題です。DX・AI・ICTの実装化と業務効率化といった具体的な構想を経て、職員の負担軽減を考え、あらゆる業務の自動化にチャレンジしていきます。先の見えにくい時代を共に乗り越えていく人材を発掘し、ともに育ち、発展する環境をつくってまいります。

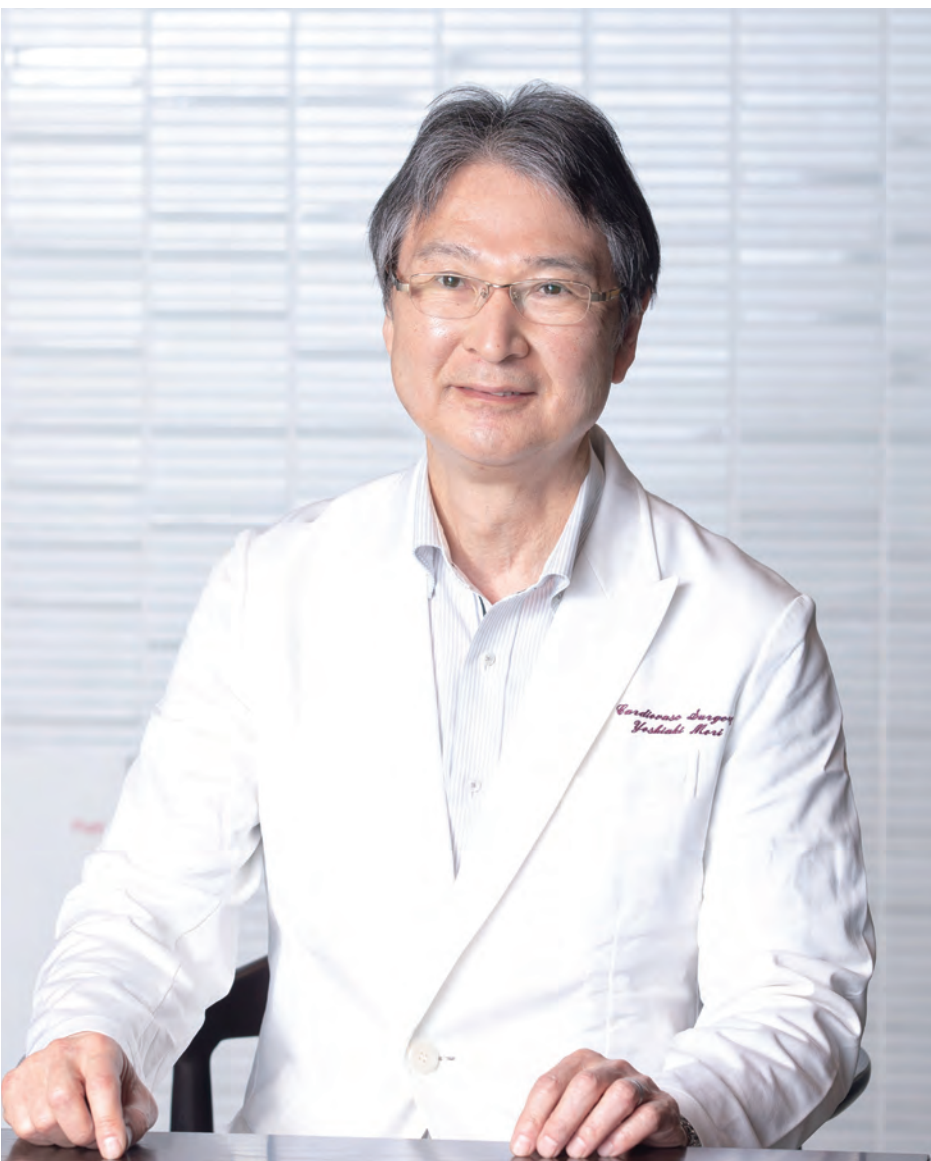
今年掲げた最重要項目は『改めて組織の人へ目を向け、働きやすい、そして働きがいのある組織をめざす』といたしました。

Close up! 業務改革・人材確保/
職員の負担軽減のために



働き甲斐や働きやすさを念頭に 職員を支える仕組みづくりを検討。

大分三愛メディカルセンター 病院長 森 義顕



コ ロナ禍の3年間、大分三愛メディカルセンターではいくつかの危機がありました。

2020年8月、県内医療機関2例目としてのクラスターでは多大な影響を被りましたが、それにより対処方法を会得することができました。2022年の第6〜7波では、感染者の爆発的増加で、職員自身や家族に感染・濃厚接触が頻発。職場離脱を余儀なくされた職員が増えました。部分的な診療制限などの措置に加えて、さまざまな工夫を凝らしたことで、減少した職員数でそれぞれの部署業務を遂行し、この危機を乗り切ることができました。図らずして業務の効率化を達成した形となりました。このことは、「私たち医療職でも十分な休暇を取ることが、夢物語ではなく可能である」ことを証明しました。

2023年初頭、社会医療法人三愛会は「働き方改革」と同時に、「休み方改革」を提唱し、本年度より「5日間連続休暇の取得義務化」制度を整備。これは特別休暇ですので、年間休日数が実質5日増えたことになります。計画的に業務を行う中で工夫が生まれ、効率化することで「長期休暇取得」を実現し得るのです。

また、医療機関は女性の多い職場です。子育て期の職員をはじめ、女性も男性も働きやすい職場であるか、常に問い続けなければなりません。育休や時短勤務などはもちろん、他にもより根本的に職員を支える仕組みができないか、検討中です。

当院の4つの理念の最後は「職員が幸せでやりがいのある病院をめざします」です。新館4階に新設された職員食堂・カフェ/Pace（パーチェ）も福利厚生の一環。病院経営陣は職員の働き甲斐や働きやすさを念頭に置き、ひいては地域の皆さまのため、病院運営にあたる所存です。

Close up! 福利厚生/
働きやすい環境整備のために



[社会医療法人 三愛会]

大分三愛メディカルセンター
三愛総合健診センター

所在地	〒870-1151 大分県大分市大字市1213番地
TEL	097-541-1311
FAX	097-541-5218
病床数	190床
診療科	脳卒中センター、消化器病・内視鏡センター、 運動器センター、救急外傷センター（ER）、人工透析センター、 画像診断センター、リハビリテーションセンター、 救急科・外科・消化器外科・心臓血管外科・呼吸器外科・ 乳腺外科・大腸肛門外科・脳神経外科・整形外科・ 泌尿器科（人工透析）・形成外科・内科・総合診療科・ 消化器内科・呼吸器内科・循環器内科・糖尿病内分泌内科・ リウマチ科・神経内科・放射線科・リハビリテーション科・麻酔科
専門外来受付	8:15～12:00/ 13:30～16:00 ※2023年4月より、午後の外来時間を変更しております。 ※診療開始時間は診療科によって異なります。
休診日	日曜日・祝日・土曜日午後 ※但し、救急・時間外診療は24時間体制です。
認定施設	二次救急指定病院、大分DMAT指定病院、DPC対象病院、 日本医療機能評価機構認定病院

介護保険相談センター さんあい
（大分三愛メディカルセンター内）

TEL	097-542-7409
サービス	居宅介護支援、介護予防居宅介護支援

三愛訪問看護ステーション
（大分三愛メディカルセンター内）

TEL	097-541-7007
サービス	訪問看護、介護予防訪問看護

のつはる診療所

所在地	〒870-1203 大分市大字野津原906番地の1
TEL	097-588-1311
診療科目	外科・内科・整形外科・循環器内科・リハビリテーション科
病床数	19床
サービス	通所リハビリテーション（デイケア）、介護保険相談センター
HPアドレス	notsuharu-san-ai.com/

三愛呼吸器クリニック

所在地	〒870-1143 大分市田尻419-1
TEL	097-541-2588
診療科目	呼吸器内科・内科
サービス	呼吸リハビリテーション
HPアドレス	kokyu-oita.com

たばるクリニック

所在地	〒870-1154 大分市大字田原字深田936番地1の1
TEL	097-541-2345
診療科目	外科・内科・消化器外科・リハビリテーション科
サービス	訪問看護ステーション

介護老人保健施設 たばる
（たばるクリニック併設）

TEL	097-542-4139
サービス	入所サービス、短期入所療養介護（ショートステイ）、 通所リハビリテーション（デイケア）

グループホームたばる
（たばるクリニック併設）

TEL	097-541-5298
サービス	入所サービス

庄内診療所

所在地	〒879-5421 由布市庄内町柿原280番地1
TEL	097-582-3600
FAX	097-582-3619
病床数	19床
診療科	内科・消化器内科・外科・消化器外科・整形外科・ リハビリテーション科

介護老人保健施設 わさだケアセンター

所在地	〒870-1151 大分市大字市宇大坪11番地の2
TEL	097-541-6655
サービス	入所サービス、短期入所療養介護（ショートステイ）、 通所リハビリテーション（デイケア）
HPアドレス	wasada-care-center.com ※アドレスを変更しています

有料老人ホーム さんさん

所在地	〒870-1151 大分市大字市566番地の3
TEL	097-529-5580
サービス	住宅型有料老人ホーム

さんあいヘルパーステーション
（有料老人ホームさんさん内）

TEL	097-529-5582
サービス	訪問介護、介護予防訪問介護

[社会福祉法人 三愛会]

特別養護老人ホーム そうだ藤の森

所在地	〒870-1123 大分市大字寒田202番地
TEL	097-567-8822

天領ガーデン・ふれあい館

所在地	〒870-1143 大分市大字田尻高尾783-1
TEL	097-578-7122

特別養護老人ホーム 天領ガーデン
（天領ガーデン・ふれあい館内）

TEL	097-574-7500
-----	--------------

産休育休制度 出産予定日6週間前から産後8週間。育休は約1年間。	各種祝い金支給 出産・入学・結婚手当・育児手当など。	時短勤務 子育て世代に、小学校1年生まで対応。	男性の育児休暇推進 男性の育児参加を積極的に推進。	残業時間削減 業務効率化で「休み方改革」という観点を。
教育制度の充実 ラダー・研修・資格取得・学会参加など、研鑽のために。	DX化 業務効率化のために最先端技術を駆使。	外来時間短縮 新年度より、働き方改革の一環として時間を変更。	5日連続休暇取得 5日間連続した休暇を必ず取得するよう推進。	積極採用 さまざまな人材を積極的に採用し、組織を多彩・強固に。
感染症休暇対応 感染症に罹患しても欠勤とならないように配慮。	女性活躍 幹部への昇進の機会が男女平等となるように。	各種休暇制度 育児・慶弔・看護・介護休暇などの他、時間単位休暇制度など。	交通費支給 情勢に合わせて交通費UP。遠方からの出勤を考慮。	女性用社宅 病院から徒歩圏内に女性用の社宅を完備。
マイカー通勤OK 自家用車はもちろん、バイクや自転車での通勤もOK。	賞与年3回 夏・冬・年度末で合計3.9倍（2022年度実績）を支給。	職員食堂・カフェ 2023年2月に新設された大分三愛メディカルセンター職員食堂・カフェ「Pace」。	退職金制度 3年以上継続勤務した職員へ支給。	永年勤続手当 10年から5年単位で表彰し、手当を支給。

※上記の福利厚生などは一部です。

医療介護の業界は、女性スタッフが多くを占めます。社会でも多くの理想が叫ばれていますが、まだまだ「家庭」「子育て」などにおける女性の負担は、現場に重い影を落としているのも事実です。「子どものことがあるので、仕事を辞めます」「家のこととの両立ができないので、短い時間しか働けません」「本当は、もっと社会の中で働きたいんです」。そういった声は、厳然たる事実としてあるのです。

法人として、できることは何か。そして、ただそれだけを解決するのではなく、「地域」の医療介護機関として、やるべきことは何なのか。

2023年の春、それらに正面から向き合う計画が動き出しました。「仕方ない」に甘んじるのではなく、理想を求めて、綺麗事の実現を求めて、関わるすべての方の幸せを追求した「子ども」「高齢者」を含めた本当の「地域包括ケア」を空想しているところでは、ない。その空想が現実のものとなるよう、またそれを皆さまへ胸を張ってご紹介できるよう、三愛会はいま、一歩一歩前に進んでいます。



“子育ての安心”と
“働きたい”の両立を求めて。